

日本声楽発声学会

学会通信 35号

2016年(平成28年)10月

会員の皆さま

酷暑の夏も全国のあちこちに台風の厳しい爪痕を残しながら去り、今は錦秋の季節を迎えております。皆さまにおかれましては、ご無事でいらっしゃいますでしょうか。この2～3ヶ月日本のみならず世界中に起こる惨事がテレビで放映されます都度に心が痛みつつ、皆さまのご無事をひたすら案じております。これまで何度も脅威にさらされたことは数知れず、その度の悲惨さにただひれ伏すかのように無力な人間と化してしまわねばならない現状に、自然に対する人間の非力を感じずにはいられません。しかし、どんなに痛めつけられても修復しながら勢力的に立ち上がり歩み続ける人々の底力も報道され心打たれます。

かたや、オリンピック、パラリンピックでは、人間の精神的エネルギーの限界は行きつくところ知らずのように、計算しつくされた英知と底知れない精神力の結果に感動を押さえることができません。時間をかけての訓練と努力の積み重ねが身から満ち溢れた演技に、ここでは『すごい!!』の一語に尽きます。どちらも自然を基盤にして挑む人の営みであり、連綿と着実に挑戦し続けてきた証だと実感しております。

私が義務教育を受けて育った時代は、俗に「読み・書き・そろばん」という表現で語られるように、今日のようにデジタル化された時代とは全く違う、それを称してアナログ人間と申しますのでしょうか、どんどん変わる現代の事象の中で、あくまで手作りである我々の発声の、その意図を踏まえての研究はますます前進せねばならないと思っております。

HPもこれまでのものからリニューアルして、まもなく開設されます。現在の世相から、HPは学会の顔であり玄関であります。新しく立ち上げるには経費もかかり充実したプログラムは望めませんが、徐々に発展させていきたいと思っております。「歌の集い」の演奏会も会員の皆さまからのお尋ねや要望に応じて、これまでとは違った趣旨で企画し、開催の方向で進めております。当学会通信の「歌の集い」の記載覧をご参照ください。学会のメールアドレスも立ち上げました。何かのご連絡にご利用ください。

8月22日(月)恒例の“日本福音ルーテル東京教会”(新大久保)で、夏季研修会も無事終了致しました。この日の東京は、生憎11号台風に見舞われ開催も危ぶまれましたが、交通機関の不安定の中、開催時間には思いの外多くのご参加の方がお集りくださり、無事開催することが出来ました。お申込みいただきながらこのような事情によりお出まし出来なかった何人かの方もあり、残念でございました。当日の講演等の内容は、この学会通信の「夏季研修会報告」覧に記載しております。詳細な内容は、No.8号の学会誌でご紹介いたします。

次回11月定例の例会は、11月27日(日)に東京藝術大学で開催されます。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

永井和子

1. 夏季研修会報告

日時：2016年8月22日(月)11:00~18:15

会場：日本福音ルーテル教会会堂

総司会 鈴木慎一郎

1) A講座 「音声科学講座」11:00~13:00

司会 竹田数章

会場 1階会議室

講師 岡田安弘氏

演題 『脳の働きと音声』

報告 竹田数章

講師：岡田安弘氏(神戸大学脳神経科学、生理学名誉教授)をお招きして、【脳の働き、聴覚と音声】ということで、講義していただきました。

私たちが美しい音楽を聴き、きれいな声で歌う時、脳はどのような働きをしているのか、講義では、空気の振動としての音がどのようにして脳に伝えられ、音として認識しているのか、また私たちが話し、歌うとき、脳の指令がどのようにして微妙な音の変化を醸し出すのか、脳の成り立ちと働きを説明していただきました。概略は以下のようなものでした。

脳は、決して特別な臓器ではないにも拘らずその中から精神とか歌うとかいろいろなものが出てくる不思議な臓器です。人の体は、母体の中で一つの細胞から発達し、60兆個の細胞の塊となり、コミュニケーションするために発達した臓器が脳です。脳の中で活動している神経細胞は、1,000億ぐらいあります。

神経同士をつなぐシナプス数の増加が脳の発達を促していきます。

聴覚は外耳から入った音が、鼓膜で振動に変わり、中耳を通り、内耳の蝸牛で一旦バラバラにされ、神経を伝って脳に運ばれ、脳で再度組み立て認識する仕組みになっています。言語も言語野というところで再度作り直して判断しています。聞こえていると聴いているとは意識のところで違います。

音声はどのようにして生み出されるのか。発声の3要素は、①音の強弱②音の高低③音の音色（共鳴腔の形）です。日本語はモーラ言語で、ヨーロッパ等のアクセント語でなく、母音の響きが歌うことを決定します。リズムについては、脳のどこで作られているのかまだ解明されていません。

最近のトピックスとして、ハイパーソニックエフェクトというのがあります。人間は2万Hz以上の音は聴こえないといわれていますが、視床下部、脳幹で超音波のような音に反応して心地よく感じているのではないかと、という研究がなされています。

2) B講座 「演奏と講演」 14:00~16:00 司会 永井和子

会場 2階礼拝堂

講師 森田 学氏

講演題目 『イタリアの詩と歌』

演奏曲目

ドニゼッティ作曲 詩：ダンテ『神曲・地獄篇第33歌』より
<ウゴリーノ伯爵>

伴奏 山岸茂人氏

報告 永井和子

演奏と講演は、西洋音楽の発祥の地でありながら、詳しい文献を探すことの困難な分野であったイタリアの音楽の、深い思考性の上に構築された英知ある文化として圧倒的にヨーロッパを席卷してきた所以を演奏と講演で知ることが出来ました。約20分の朗読と歌を交互演奏で進められました。講演では、真の「イタリアのことばと歌」に辿り着くのは容易なことではなく、古代に遡り、イタリアの文学が韻文で書かれているその流れの中から見ていくことで近づけると前置き、イタリアの声楽曲を歌うには古代から続くイタリアという国、民族、文化のルーツの理解が必要であることを説かれました。

日本人にとってのイタリアのイメージは、実際とは大きな「ずれ」があるとの指摘。我々には「イタリア」というと明るく、屈託なく、ナポリ民謡感覚“チ

ヤオ!! とかピッツァ!! とかいった感覚ですが、イタリア人にとっては、自国文化とか自分のルーツというものには寡黙な面もあると共に深い思い入れがあり、自国文化の伝承精神は、日本人が思うイタリアとは全く違った重みを感じ、日本人がイタリアの芸術と向き合うところの大きな違いだということです。

演奏歌曲は「地獄篇・煉獄篇・天国篇」の3部からなる14,233行の韻文で書かれた長編叙事詩で、その中の地獄篇・第33歌に登場する中世イタリアの貴族ウゴリーノ伯爵(1220～1289)とその4人の子供たちの悲しい運命の箇所を通じて、イタリア文学の構築された奥義を聴くことができました。

黙読より音読を優先し、音にして空間の中でその響きを共有することで初めて作品となるという発想、それもイタリア文化の深く真摯な思考性の中で培われたものであったことを知ることができました。2時間に亘る充実したご演奏とご講義に大きな拍手をもって感動のうちに終了致しました。

3) C講座 合唱曲及び歌曲の作曲者自身による公開レッスン

16:15～18:15

司会 川上勝功

会場 2階礼拝堂

講師 新実徳英氏

講座内容 新実徳英先生の声楽作品から、合唱曲及び歌曲集「花に寄せて」を課題曲とし、合唱とソロ各々に作曲家の立場からのレッスン形式で行いました。

報告 川上勝功

今回のこの企画は、夏季研修会の中の作曲家シリーズの一環として取り上げました。作曲家自身が詩をどう捉え、どう表現しようとしているのか。また、再現芸術家である声楽家やピアニストがどのようにその詩を、そのメロディーを表現すれば良いのか。作曲家自身の口からアドバイスをさせていただこうというのがメインテーマとしてあります。

今回取り上げた課題曲集『花に寄せて』は、最初混声合唱組曲として、ちょうど今から30年前に作曲された新実氏の合唱作品としての代表作の一つです。詩は、群馬県出身の星野富弘氏の作品です。

星野氏は、群馬大学を卒業後、中学校の体育教師になられたが、公務災害(クラブ活動の指導中の墜落事故)で頸髄を損傷し、手足の自由を失ってしまいました。しかし、長い入院生活の中でのリハビリを経て、口に筆をくわえて文字や絵を書き始めました。その後の星野氏のご活躍については、皆さんも良くご存知と思います。星野氏の作品は国際的にも大きく評価されております。

新実氏はその星野氏の詩画集『風の旅』と出会い、大きな衝撃を受けたと語っておられました。『丹念な筆致と美しい色彩による花の数々、そしてそれらの花に投影された彼の優しく強い言葉の数々。どれもこれもとても感動的であった。しかもその全ては、手足の自由を失った一人の男が口に筆をくわえて成し遂げたものなのである』とも記しておられます。そして『生きる希望、生きる勇気を与えることこそ芸術の存在理由だと私は信じているのだが、この詩画集の著者はまさにそれを私に与えてくれた。すぐさまこれを混声合唱組曲に仕立て上げようと決心した。』これらは新実氏の作曲の動機として混声版の『花に寄せて』の初版本に記されたものです。この『花に寄せて』は、先の混声版、女声版、男声版と3つの合唱曲集があるのですが、当日は新しく出版された独唱版の楽譜と女声版の楽譜を使用して、テノールが、Ⅲ しおん、Ⅶ ばら・きく・なずな(-母に捧ぐ-)。ソプラノが、Ⅴ てっせん・どくだみ、Ⅵ みょうが。女声合唱団によって、Ⅰ たんぼぼ、Ⅱ ねこじゃらし、Ⅳ つばき・やぶかんぞう・あさがおの順で演奏され、それぞれが手応えのある演奏を聴かせて下さり、新実氏の貴重なアドヴァイスを受けることができました。実際のレッスン内容の詳細につきましては、次回発行の学会誌8号に報告させていただきたいと考えております。

2. 歌の集いについて

1) 第11回「歌の集い」演奏会

第11回「歌の集い」の出演者を募集いたします。

既にお伝えしておりますとおり、「歌の集い」は10回をもちまして一区切りとなりました。新演奏委員会（泉恵得、齊藤祐、豊田喜代美）はこれまでの反省点を踏まえて内容を微調整しつつ、会員お一人おひとりにとって有益な「歌の集い」にすべく微力ながら努めて参る所存です。よろしくお願ひします。

「歌の集い」の主旨は、会員の皆さまの日頃の歌唱研鑽の成果を発表して頂き、それを皆で分かち合ひましょうというものです。他者からの批評は一切ありません。公開演奏会の歌唱体験の中で演奏者ご自身が何かに気づき成長の糧を見つける「場」として、「歌の集い」は有益でありたいと考えております。

第11回からの「歌の集い」は年に1回の夏季研修会時に併催いたします。新しい試みとして「レクチャー付き演奏」の枠を設けました。「レクチャー付き演奏」担当者については演奏研究のニーズに対応すべく、理事会で協議した上で理事会推薦・承認といたします。そして学生の研究・研修に対応する学術学会

としての充実を図るため、出演枠に「学生」枠を加えました。

「歌の集い」運営については、これまで同様に本学会演奏委員会が中心となりますが、出演者、チケットチラシ作成、広報、チケット精算会計などは、理事会管轄となります。

傘寿をお迎えになった本学会会員をはじめ、意欲的に演奏活動をなさっていらっしゃる声楽家が少なからずいらっしゃいます。この事実は、歌うことが健康維持にプラスである証といえますでしょうか。大いに共に研鑽し、歌って元気な日々が過ごせますことを目指して、微力ながら「歌の集い」運営に努めて参ります。ご応募をこころよりお待ち申し上げます。

演奏委員：泉恵得 齊藤祐 豊田喜代美

2) 平成 29 年「歌の集い」募集要領

○①お名前、②ご年齢、③ご住所、④お電話番号・ファックス番号（携帯電話番号も）、⑤メールアドレス（ご使用の場合）、⑥略歴（200～300 字）、⑦ピアニスト名と略歴（100 字まで）、⑧演奏曲（原語と日本語、作曲者/生年没年/作品番号、作詞者、演奏所要時間）を記して、郵送もしくはメールにて、下記、本学会事務局まで応募くださいませ。お問合せも事務局へお願いいたします。募集人数に達し次第、締切りとさせていただきます。

☆【応募先】【問合せ先】日本声楽発声学会事務局

住所：〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 1-2-11 フィガロ 302

Tel/Fax：03-6804-7047 Mail：jars.office@gmail.com

○日程

平成 29 年 8 月 21 日、8 月 22 日 ※夏季研修会時に併催する。

○会場

東京新宿ルーテル教会 聖堂ホール

○出演者

- ・独唱、声楽アンサンブル：2～4 組
- ・学生：1～2 組 ※卒業試験、修士試験の研鑽の成果が望ましい。

○演奏時間

1 組 15 分～18 分

○チケット

- ・ 1枚 2,000円
 - ・ 1組 10枚を割り当てとする。11枚目からは1,500円を納める。
 - ・ 精算は本番当日に行う。
- チラシとチケット
- ・ 本番の3ヶ月～5ヶ月前に出演者にお渡しする。

3. 会員による催し

1) 臨床音声学研究会東京（竹田数章理事より）

2016年11月26日（土）午後5時から午後7時
 場所は東京渋谷東急本店裏 呼吸と発声研究所です。

<http://www.att-yoneyama.com>

声楽発声学会会員で医師関係の人が中心に行っている研究会ですが、どなたでも参加はご自由です。

参加費は1000円です。参加希望者は11月22日までに竹田までお願いします。

(FAX 03-5313-3281)

2) ムシカ・ポエティカ公演（淡野弓子会員より）

<レクイエムの集い 2016> ～ 魂の慰めのために～

- 2016年11月10日（木） 18:30開演（18:00開場）
- G.F.ヘンデル オラトリオ《メサイア》 HWV56 全曲
 ソプラノ：淡野弓子
 アルト：永島陽子
 テノール：ツェーガー・ファンダステーネ
 合唱：ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京
 器楽：ユビキタス・バッハ（ピリオド楽器使用）

指揮／バリトン：淡野太郎

三鷹市芸術文化センター 風のホール
 全席自由 4,000円（一般）／2,500円（学生）
 チケット予約：菊田音楽事務所
 TEL：042-394-6148 FAX：042-394-0543

★追悼なされたい方のお名前を当日のプログラムに記載（無料）させていただきます。詳細は主催者へ。

主催：ムシカ・ポエティカ

<http://www.musicapoetica.jp>

TEL: 03-3970-0585 FAX: 03-3998-5238

4. 第104回例会のご案内（詳細は同封の例会プログラムをご覧ください）

プログラム

総司会 鈴木慎一郎

開会挨拶 9:55~10:00

会長 永井和子

A 研究発表 10:00~12:00（大講義室 5-109）

司会 齊藤 祐

① 10:00~10:30

水越美和（お茶の水女子大学講師、声楽家）

「マヌエル・ガルシア（1805-1906）の声楽教師としての活動にみる、
ガルシア家の継承」

② 10:35~11:05

（共同研究）

豊田喜代美（沖縄県立芸術大学教授・声楽家・博士（知識科学））

工藤 和俊（東京大学大学院情報学環・学際情報学府准教授、身体運動科学研究）

「歌唱と姿勢の関係 -身体運動科学の視点から」

③ 11:10~11:40

（共同研究）

田村邦光（工学博士、音楽に寄す会主宰、久喜市歌声教室講師）

河合孝夫（河合孝夫音楽研究所所長）

「声楽発声への音声分析の応用事例

-音の高さ・倍音・フォルマント分析等による歌声の評価の試み-

※ 11:45~12:00 質疑応答

B 特別講演 13:00 ~ 15:00 (大講義室 5-109)

司会 竹田数章

講師：三枝英人氏 (さえぐさ ひでと)

(東京女子医科大学八千代医療センター耳鼻咽喉科小児科科長・講師)

講義テーマ：直立姿勢と発声、歌唱

講演概要：

私たちは、子供の頃から親や大人から事あるごとに直立姿勢を強調され、加えて直立姿勢での発声を指導されてきた。年老いて背腰が彎曲するに至り、ようやく「あー、若い時にもっと姿勢を良くしておけばよかったあ」と嘆くのであるが、嘆くその声はもう力が無いものである。幼稚園や小学校の音楽発表会を聴いていると、全員が直立に綺麗に一直線に並んでということは難しい。歌の方は、客観的な耳からすればとても聴けたものではない。小学校中学年になると、横一線にようやく並んで、硬く直立を守りながらであるが、ようやくメロディーらしくなってくる。全員で拍子を合わせるように体を左右に曲げたりなども良く見る光景である。小学校高学年になると、直立姿勢に余裕がみられるようになり、「さすが6年生ねえ」という合唱になってくる。このように直立姿勢と発声は関係を有していることが理解されるが、一方でそれが歌唱という段階に至るにはただ立ち上がるだけではなく、かなりの年月、もしくは鍛錬が必要になるということも伺い知ることが出来る。ヒトが樹上生活から地上へ降り、視野拡大を得るために立ち上がり、その時、初めて感嘆の声を発したと言われているが、その時点から音声言語を発するに足る私たちの身体に至るには700-800万年の歳月を要している。直立姿勢と発声、そこから歌唱に至る生命形態学的背景につき考察したい。

《プロフィール》 三枝英人氏

平成4年日本医科大学卒業、同年日本医科大学耳鼻咽喉科入局、平成12年伊勢崎市民病院耳鼻咽喉科医長、16年日本医科大学耳鼻咽喉科講師を経て、平成21年には東京藝術大学非常勤講師、平成24年東京女子医科大学八千代医療センター耳鼻咽喉科小児科科長・講師。

副職として、平成12年 東京大学医学部大学院音声言語医学教室 非常勤講師、平成14年お茶の水女子大学音楽科 非常勤講師、平成20年松本歯科大学口腔解剖学第一講座 非常勤講師を務める。賞としては、平成10年日本内視鏡振興財団研究助成、平成13年日本気管食道科学会(食道部門)・奨励賞、平成16年日本気管食道科学会(気道部門)・奨励賞、平成18年博慈会老人病研究所研究助成優秀論文賞、平成24年：日本

音声言語医学会研究助成、の多数を受賞。

C 現役声楽家の演奏のお話し 15:20~16:20 (第2ホール)

司会 豊田喜代美

講師： 小濱妙美氏 (こはまたえみ) (京都市立芸術大学教授・ソプラノ)

曲目：

- ① 《ノルマ》 「清らかな女神よ」 V. ベッリーニ
Norma “Casta Diva” V. Bellini
- ② 《蝶々夫人》 「ある晴れた日に」 G. プッチーニ
Madama Butterfly “Un bel di, vedremo” G. Puccini
- ③ 《トスカ》 「歌に生き愛に生き」 G. プッチーニ
Tosca “Vissi d’arte, vissi d’amore” G. Puccini
- ④ 《ローエングリン》 「エルザの夢」 R. ヴァーグナー
Lohengrin “Elsas Traum” R. Wagner
- ⑤ 《エウゲニ・オネーギン》 「タチヤーナの手紙の場面」 P. チャイコフスキー
Eugene Onegin “Tatiana’s Letter Scene” P. Tchaikovsky
- ⑥ 「この道」 山田耕筰
- ⑦ 「初恋」 越谷達之助
ピアノ：椎野伸一氏 (しいのしんいち)

<プログラミングの意味するところ>

「私の大好きな5名のヒロイン」

早いもので、メゾからソプラノに転向してから 30 年が経とうとしています。本日は、ベルカントオペラ最高峰ベッリーニ「ノルマ」でスタートさせていただきます。「ノルマ」「蝶々夫人」「トスカ」この 3 つのオペラのタイトルロールは、いずれも愛してやまない恋人の為に自ら命を絶つものです。信心深く、凜とした堂々たる立ち居振舞いに私は共感します。魂を込め歌いたいと思います。また、ドイツ人が理想とする女性像=エルザとロシア人が理想とする女性像=タチヤーナこの 2 人の女性の内面を繊細に表現したいと思います。そして、最後には、自分の今までを振り返りながら、またいつもこころに初々しさを忘れないよう、祈りながら「この道」「初恋」を歌わせていただきます。歌える喜びに感謝しつつ....。

<プロフィール>小濱妙美氏

東京藝術大学卒業、同大学院修了。畑中良輔、エリーザベト・シュヴァルツコプフ、アントニオ・トニーニ各氏に師事。93年ドイツのブラウンシュヴァイク劇場「タンホイザー」エリーザベト役でヨーロッパオペラデビュー、「劇場始まって以来の大物歌手誕生」と大絶賛され、「ノルマ」「コシ・ファン・トゥッテ」「ナクソス島のアリアドネ」「オテロ」等出演。日本では90年藤原歌劇団「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナでデビュー、「ノルマ」では急遽代役を務め(3日間で!)『新しいDIVA誕生』と世界に発信された。「蝶々夫人」「カルメン」「トスカ」「椿姫」等出演。びわ湖ホール・オペラ「ジャンヌ・ダルク」でも急の代役で大絶賛、「エルナーニ」「シチリアの夕べの祈り」等出演。新国立劇場柿落とし「ローエングリン」「トスカ」「エウゲニ・オネーギン」「蝶々夫人」「修禅寺物語」等出演。06年ニューヨークカーネギーホールリサイタルでは会場総立ち大喝采を浴びた。パヴァロッティ・チャイコフスキーコンクール、ジローオペラ賞など多数受賞。NHKニューイヤー、題名のない音楽会等テレビやFMラジオでも活躍。日本音楽コンクール等審査員。藤原歌劇団。京都市立芸術大学教授。

5. 学会費納入のお願い

本学会の運営は皆さまの会費によって成り立っております。毎年5月の例会までに納入いただくことになっておりますが、もし、未納の場合は、速やかに、下記口座に、お振り込みいただきますよう、お願い申し上げます。

振込先 郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名：日本声楽発声学会

6. 事務局だより

今年4月に行われた本選挙により新しく選ばれた新理事によって、今期3年間を担う理事会が6月1日から活動を開始しました。

事情により多くのことが後手後手に廻ったり、ホームページが閉鎖されたり等々、会員の皆様には多大なご迷惑をおかけしてしまいました。この場をお借りしまして、心から深くお詫びいたします。

ホームページに関しましては、もう少しで更新されたものが新しく立ち上げられて皆様にお届けできますよう準備が着々と進められております。ご不便をおかけしますが、もう暫くお待ち下さいますようお願いいたします。

この8月の夏季研修会は生憎と台風11号の直撃を受けてしまいました。電車が不通となったり、飛行機も欠航となったりなど、散々なお天気となつてしまい、参加を申し込んでいても会場に来られなかった方が多くおられたのですが、幸いにして、講師の先生方も理事の方々も無事(?)に会場に辿り着き、講習会は素晴らしいものとなりました。出席された方からは悪天候の中、本当に来て良かったと沢山の賛辞をいただきました。この学会通信にも少しばかりご報告をさせていただきましたが、次の8号の学会誌にはもっと詳しく掲載させていただくことになると思います。

11月27日(日)の例会プログラムについては別記されているものを参考にご覧になり、是非多くの皆様方にご参加いただきたいと切に思っております。

事務局長 川上 勝功

◎ 学会事務局

日本声楽発声学会事務局 (担当: 山下)

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 1-2-11 フィガロ 302

Tel & Fax: 03-6804-7047 E-mail: jars.office@gmail.com

7. 編集後記

「学会通信」第35号をお届けいたします。今号は8月の夏季研修会の報告、歌の集いの新たな歩み、そして例会のご案内と、盛り沢山な内容となりました。会員の皆さまの活発なご参加の一助となれば幸いです。

広報・情報委員長 永原恵三

日本声楽発声学会
学会通信 第35号
2016年(平成28年)10月25日発行
発行者: 日本声楽発声学会
編集者: 永原恵三
印刷所: よしみ工産株式会社東京事務所

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 本郷宮田ビル 3F